

平成 28 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	きくの害虫キクヒメタマバエに対する数種殺虫剤の防除効果		
[要約] 虫こぶ中のキクヒメタマバエに対するMEP乳剤、プロチオホス乳剤およびエトフェンプロックス乳剤の殺虫活性は高い。					
キーワード	キクヒメタマバエ	虫こぶ	防除薬剤	環境部 病理昆虫研究室 防除部 病害虫防除課	

1 背景とねらい

2010年頃から県内のきく栽培圃場ではキクヒメタマバエ *Rhopalomyia chrysanthemum* の被害による品質の低下が問題となっている。キクヒメタマバエはきくの生長点等に産卵し、幼虫は葉肉内に潜行して虫こぶを作る(図1)。卵や成虫は極めて小さく、粘着トラップ等への誘引も見られず、加えて発生時期がばらつくことなどから発生状況をみながらの防除は極めて困難であり、虫こぶの状態では効果のある薬剤の選択が求められていた。しかし、本種については知見が極めて少なく、発生生態や防除法など不明であった。

本研究では、室内試験において、虫こぶの状態では効果のある薬剤を明らかにした。

2 成果の内容

- (1) MEP乳剤(商品名 スミチオン乳剤)、プロチオホス乳剤(商品名 トクチオン乳剤)の処理区では虫こぶからのキクヒメタマバエ成虫の羽化はほとんど見られず(図2)、虫こぶの中で幼虫の状態では死んでいる。
- (2) エトフェンプロックス乳剤(商品名:トレボン乳剤)処理区では羽化のために虫こぶから体を半分出した蛹の状態では死んでいる個体、羽化した後に死んだ個体が多く見られ(データ省略)、生存虫はほとんど見られない(図2)。
- (3) 有機リン剤など同系統の殺虫剤でも、本種に対する防除効果は異なる。
- (4) 以上の結果から平成29年度防除指針において、きくの「農薬使用基準及び効果適用表」に新たにキクヒメタマバエの欄を設置し、オルトラン水和剤(×)、ジェイエース水溶剤(×)、スミチオン乳剤(○)、トクチオン乳剤(○)、モスピラン顆粒水溶剤(△)、トレボン乳剤(○)、トレボンEW(○)、ユテツフロアブル(×)、ディアナSC(×)、プレオフロアブル(×)、ハチハチ乳剤(×)を付した。

3 成果活用上の留意事項

- (1) MEP乳剤、プロチオホス乳剤、エトフェンプロックス乳剤はいずれの薬剤もきくには作物登録があり使用できるが、キクヒメタマバエには適用が無い(2016年11月16日現在)。
- (2) 試験データは室内の閉鎖系で得られたものである。
- (3) 薬剤は株全体に十分な量をしっかり散布する。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
県内各地の農業改良普及センターおよび病害虫防除所などの指導機関
- (2) 期待する活用効果
きく栽培において、防除計画策定の参考となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

- (402) 新農薬の効果検定と防除指針作成

6 研究担当者

大友令史 佐藤美和子

7 参考資料・文献

なし

8 試験成績の概要（具体的なデータ）



図1 キクヒメタマバエ成虫(左)、生長点付近に産み付けられた卵(中)、被害株(右)

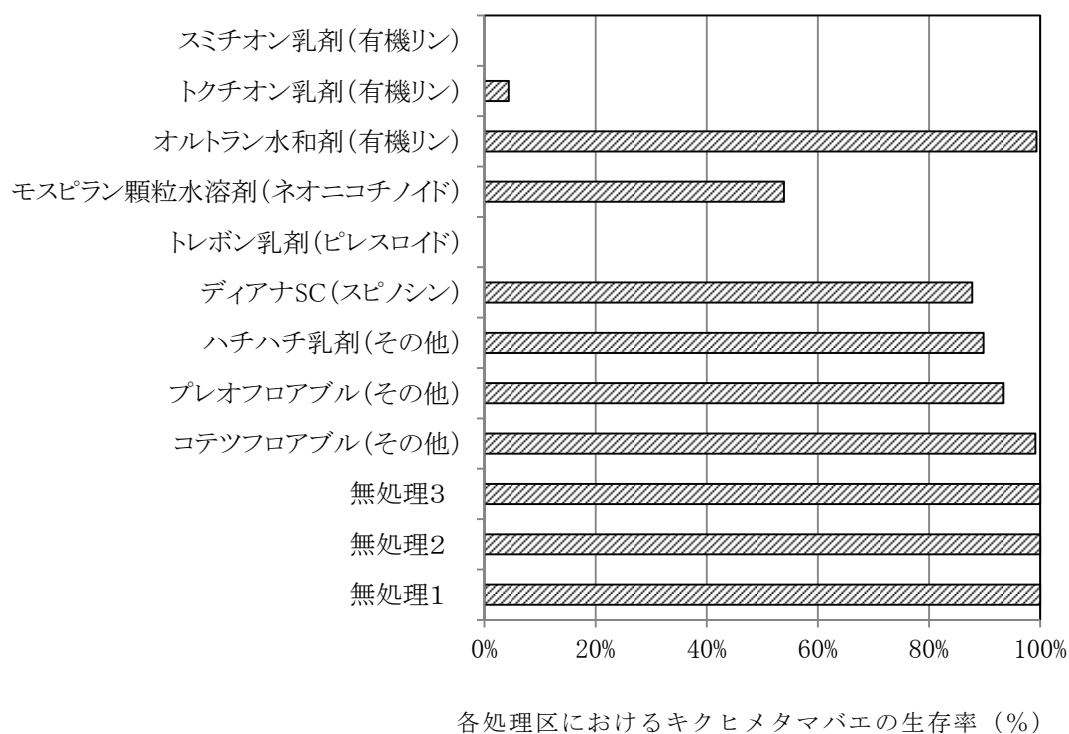


図2 各薬剤の防除効果

図2 摘要

現地圃場より生長部から10cmほどのキクヒメタマバエの虫こぶのついた小ぎくを採取。採取した当日虫こぶを数え、所定濃度に調整した供試薬剤に小ぎく苗を5秒間浸漬。プラスチックカップに給水した脱脂綿を敷き、薬剤処理した苗を立てかけ、これを3割のプラスチックビーカー内に設置し、上部にはゴースをかけ、室温で管理。処理翌日より10～15日間、毎日午前9時前後に羽化数を調査。